

## 外来での口腔外科処置シリーズ「口腔領域の外傷における初期対応」

## 第6回

## 口腔外傷症例

大分大学医学部歯科口腔外科学講座 講師  
高橋喜浩

今年度は、口腔領域の外傷における初期対応と題してこれまでに5回連載を行ってきました。

最後になる6回目は、これまで紹介してきました初期の対処法を用い当科で加療したいいくつかの症例をご紹介します。

当科での口腔領域の外傷に対する治療方針として、第1には、可及的早期に治療を行うことを大原則としています。出血や軟組織損傷はもちろんですが、顎骨骨折の場合でも同様に対応しています。最近7年間で当院救命救急センターに搬送された顎骨症例の72.2%で受傷当日に観血的整復固定術を施行しています。このように早期に治療を行うことで重症の顎顔面骨折症例群でも平均在院日数19.2日と早期の社会復帰を可能にきています(症例1)。

また、早期の治療は骨折線上の歯の保存にも貢献していると考えています。保存できない骨折線上の歯としては、①受傷から時間がたって感染している歯(症例2)。②歯そのものに外傷がある場合(症例3)。③脱臼歯で動揺が強い場合。④半埋伏智歯で保存した場合粘膜の縫合閉鎖が十分にできない場合や智歯周囲炎の既往がある場合。としています。その上最近10年間に当科で治療した下顎骨骨折症例で埋伏歯を含む骨折線上の歯82歯を調べてみると、63歯(76.8%)が保存されました。このように、外傷においては早期の対応がとても大切であることがわかってきます。

口腔領域の外傷の早期治療のためには一般開業医の先生方との連携は不可欠です(症例4、5)。早期に治療を行うことができるか否かが症例4、

と5に示すように治療期間に直結します。今回のシリーズを参考にされ初期治療後には速やかにご紹介いただき、外傷の早期治療をともに行っていくことが重要と考えます。

## 症例1

24歳、男性。バイクで自動車と衝突して受傷。当院救命救急センターに受傷当日搬送された。受傷当日に観血的整復固定術を緊急で施行した。在院日数12日間。

右上顎骨頬骨複合体骨折および右下顎角部と正中に骨折を認める(写真1-a)。観血的整復固定術後(写真1-b)。

## 症例2

27歳、男性。階段から転落して受傷。受傷から14日目に当科を受診。

右下顎2部および左下顎角部に骨折(↑)を認める(写真2-a)。初診時、骨折部は感染を認め、排膿を認めた。

観血的整復固定術時に右下顎2および左下顎8を抜歯している(写真2-b)。

## 症例3

44歳、男性。自転車で転倒し受傷。受傷から2日目に当科を受診。

左下顎4部および左下顎角部に骨折(↑)を認める(写真3-a)。左下顎8は縦に破折しており、観血的整復固定術時に抜歯を行っている(写真3-b)。左下顎4は保存している。

**症例4**

8歳、男児。自動車乗車中の事故により受傷。当院高度救命センターへ搬送され受傷当日、当科へ診療要請があった。

左下顎関節突起部および下顎正中部に骨折(↑)を認めた(写真4-a、写真4-b)。受傷当日に観血的整復固定術を施行した。下縁部にミニプレートによる骨接合を行い、圍繞結紮を併用している(写真4-c)。

在院日数12日間、受傷から退院までも12日間であった。

**症例5**

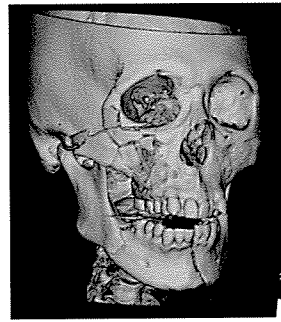
11歳、女児。自転車にて転倒し受傷。他部位の外傷の経過観察が行われたため受傷7日目に当科を受診。

左下顎関節突起部および下顎正中部に骨折(↑)を認めた(写真5-a)。

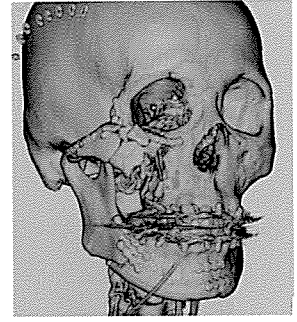
受傷後9日目に観血的整復固定術を施行した(写真5-b)。

在院日数18日間、受傷から退院までは25日間経過していた。

**症例1**

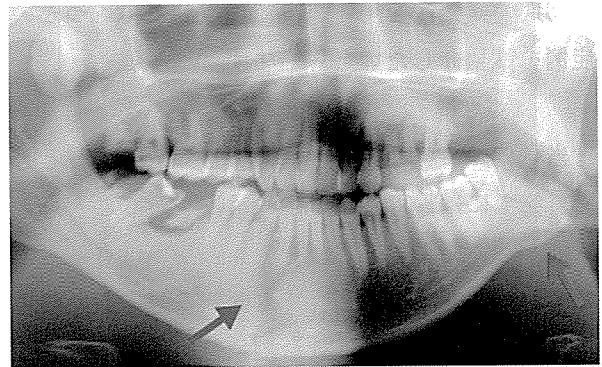


1-a

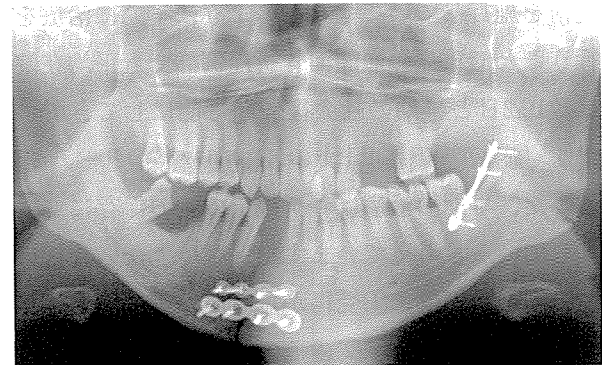


1-b

**症例2**

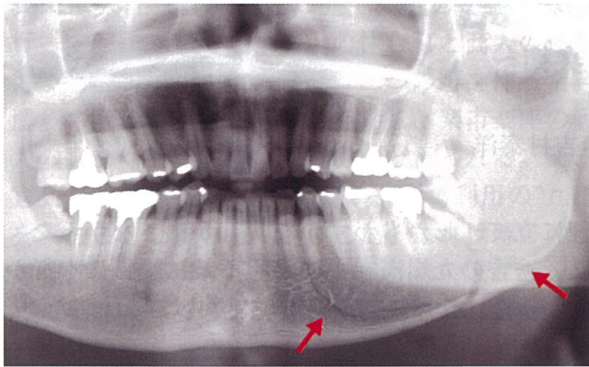


2-a

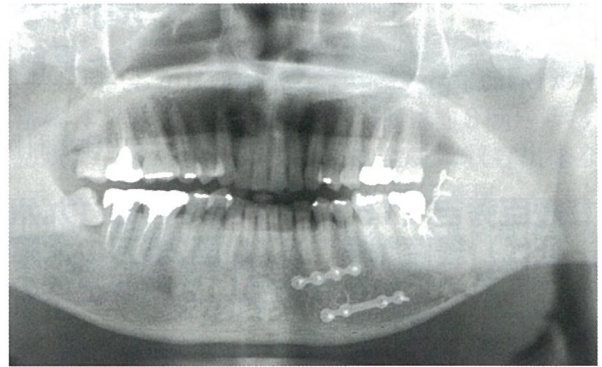


2-b

症例3

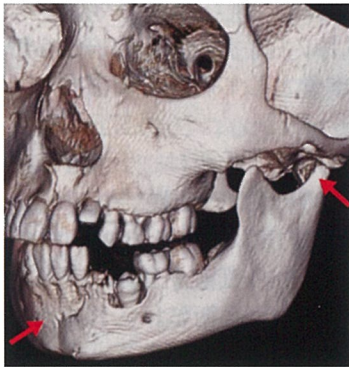


3-a

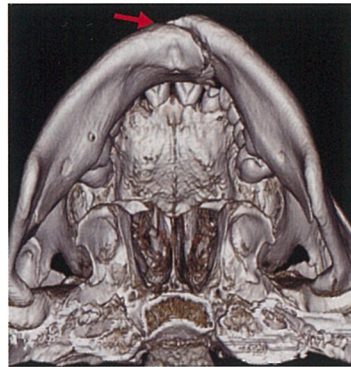


3-b

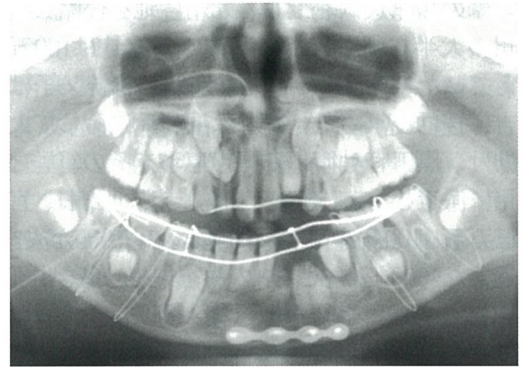
症例4



4-a

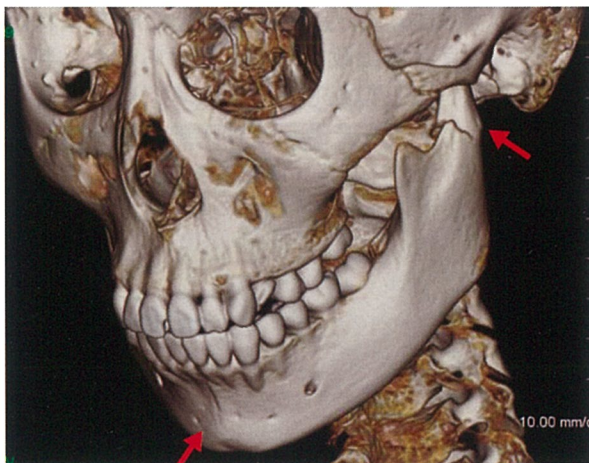


4-b

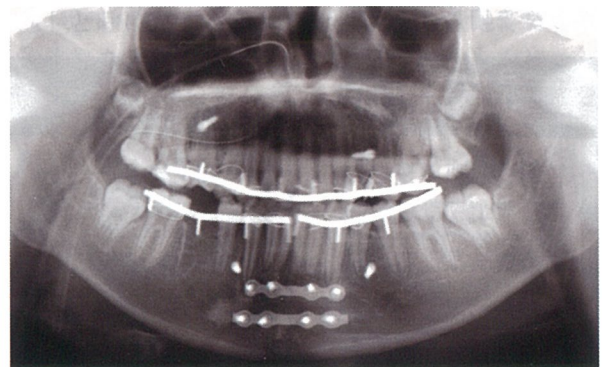


4-c

症例5



5-a



5-b